

第2章 伊豆の国市の特性

2-1 市の概況

伊豆の国市は、伊豆半島の北部、田方平野のほぼ中央に位置しています。本市の東側には箱根山系の山々が峰を連ね、西側には城山、葛城山といった山に囲まれており、平野部には南北に狩野川が流れ、自然の豊かな恵みを楽しんでいます。狩野川に沿うように国道 136 号と伊豆箱根鉄道が走り、その周辺には市街地が形成され、田園風景と豊かな自然が調和した美しい景観を創り出しています。

東京からは 100km 圏内にあり、東海道新幹線や東名高速道路と新東名高速道路から、伊豆縦貫自動車道や国道 136 号、伊豆中央道の利用により 2 時間弱の距離となっています。静岡県東部の中心地である沼津市や三島市にも近く、交通利便性に富んだ場所に位置しています。

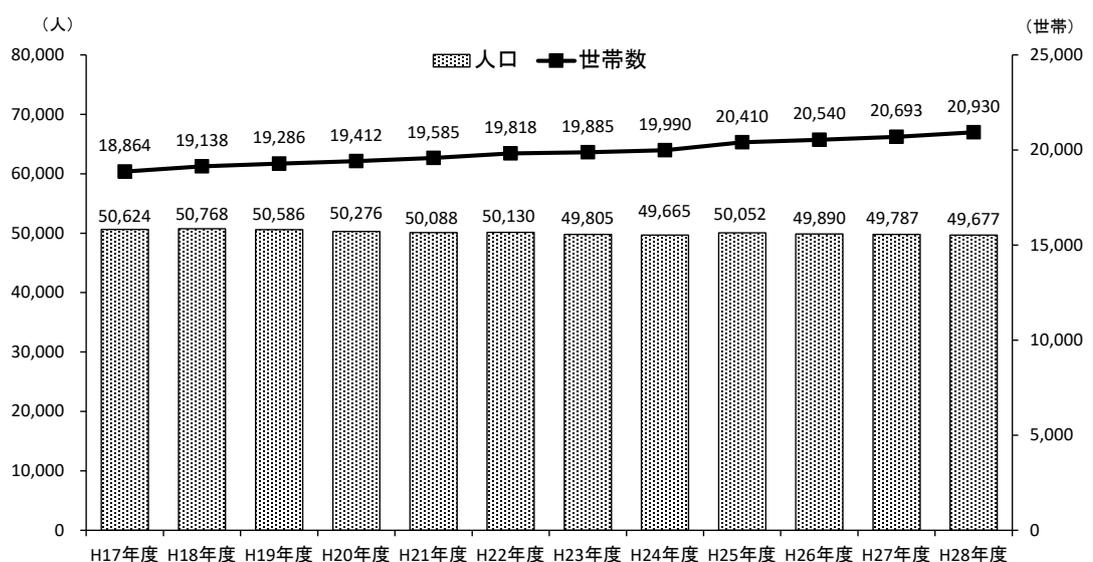
また、世界文化遺産「韮山反射炉」、国宝「願成就院運慶作諸仏」や重要文化財「江川邸」など歴史資源も豊富です。

2-2 人口等の動向

(1) 人口

本市の人口は、ここ数年減少傾向で推移しており、平成 28 年 4 月 1 日現在、49,677 人となっています。一方、世帯数は増加しているため、1 世帯あたりの構成人員は同時点で 2.37 人と核家族化が進んでいます。〈図表 2-2-1〉

●図表 2-2-1 人口・世帯数の推移



※各年 4 月 1 日現在

出典：住民基本台帳

(2) 出生・死亡

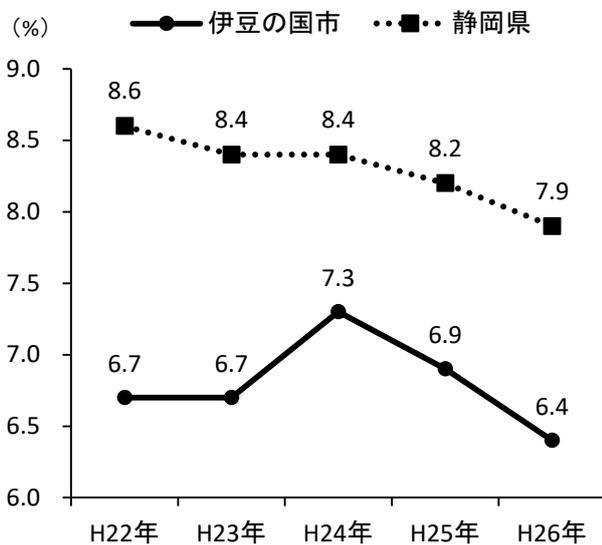
出生率は、静岡県は緩やかに低下しつつありますが、本市では静岡県よりも低い率で推移しています。〈図表 2-2-2〉

死亡率は、平成 26 年は静岡県と同じく 10.5%となっています。〈図表 2-2-3〉

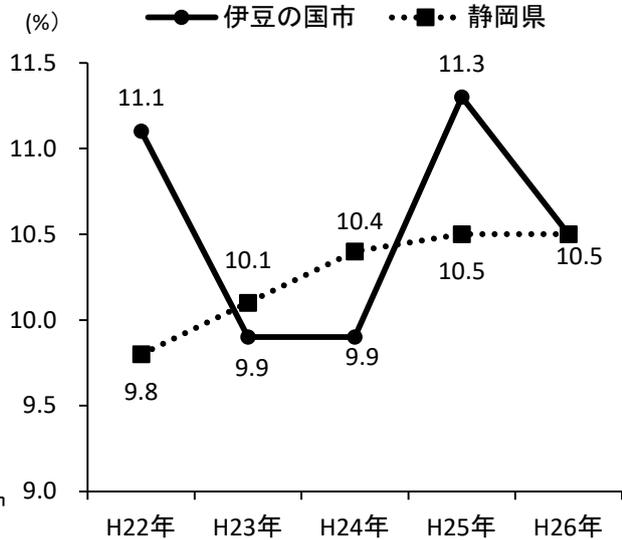
乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡は、年間概ね 2 人以内で推移し、死産は年間 10 人前後で推移しています。〈図表 2-2-4〉

主な死因は、悪性新生物、心疾患となっています。また、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患のいわゆる三大生活習慣病による死亡が平成 26 年では全体数の約 5 割を占めており、特に悪性新生物が多くなっています。〈図表 2-2-5〉〈図表 2-2-6〉

●図表 2-2-2 出生率の推移



●図表 2-2-3 死亡率の推移



※出生率人口千対 出典：静岡県人口動態統計 注：死亡率は人口千対 出典：静岡県人口動態統計

●図表 2-2-4 乳児死亡等の推移

(単位：人)

年次	乳児死亡	新生児死亡	死産		周産期死亡	
			自然	人口		
平成 22 年	0	0	10	6	4	1
平成 23 年	1	0	11	3	8	-
平成 24 年	0	0	10	1	9	-
平成 25 年	1	1	6	3	3	3
平成 26 年	2	1	8	5	3	2

出典：静岡県人口動態統計

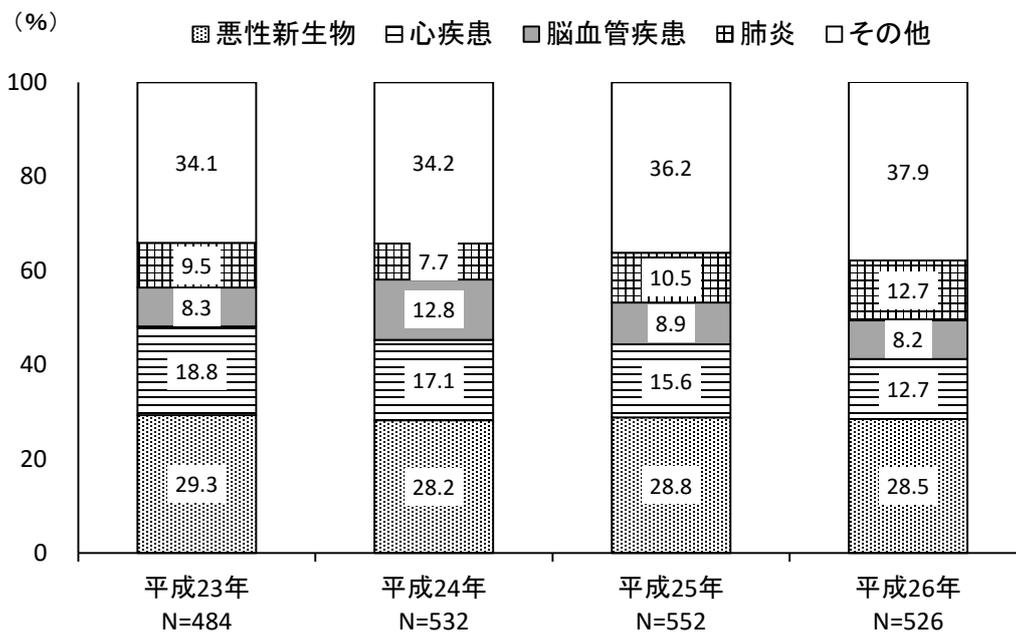
●図表 2-2-5 主な死因別死亡率の推移

死亡率(人口10万対)10月1日現在

区分	年	第1位		第2位		第3位	
		死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率
伊豆の国市	平成22年	悪性新生物	354.4	心疾患	150.2	脳血管疾患	112.1
	平成23年	悪性新生物	285.3	心疾患	182.8	肺炎	92.4
	平成24年	悪性新生物	277.8	心疾患	162.0	脳血管疾患	121.1
	平成25年	悪性新生物	317.7	心疾患	171.8	肺炎	115.9
	平成26年	悪性新生物	300.4	心疾患	134.2	肺炎(第2位)	134.2
静岡県	平成22年	悪性新生物	277.1	心疾患	147.6	脳血管疾患	111.9
	平成23年	悪性新生物	277.1	心疾患	155.1	脳血管疾患	111.2
	平成24年	悪性新生物	278.8	心疾患	154.7	脳血管疾患	115.6
	平成25年	悪性新生物	288.6	心疾患	151.2	脳血管疾患	111.3
	平成26年	悪性新生物	287.2	心疾患	149.9	脳血管疾患	110.5
全国	平成22年	悪性新生物	279.7	心疾患	149.8	脳血管疾患	97.7
	平成23年	悪性新生物	283.2	心疾患	154.5	肺炎	98.9
	平成24年	悪性新生物	286.6	心疾患	157.9	脳血管疾患	96.5
	平成25年	悪性新生物	290.3	心疾患	156.5	肺炎	97.8
	平成26年	悪性新生物	293.5	心疾患	157.0	肺炎	95.4

出典：静岡県人口動態統計

●図表 2-2-6 主な死因別死亡率の推移(伊豆の国市)



出典：静岡県人口動態統計

